

## OpenStreetMapを活用した 地域コミュニティ支援の為の集合知モデル の提案



早川知道  
Tomomichi Hayakawa  
名古屋工業大学 伊藤孝行研究室  
OpenStreetMap Foundation Japan

## OpenStreetMapについて

- 自由な地理情報データ作成プロジェクト
  - 2004年 英国のSteve Coast氏により始められた
- Wikipediaの地図版
  - 世界の貢献者により精度と情報量を向上
  - 迅速な更新
- オープンソース的な地図データ
  - 自由にデータを利用出来る
    - Open-Database License (ODbL)

## GoogleMaps があるじゃん！

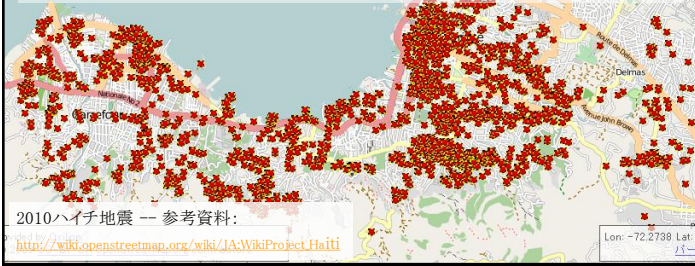
- GoogleMapsは、**無料の地図**だが  
**自由な地図**では無い
  - 複製, 改変, 再配布は無断では出来ません！
- **印刷して配布したら→アウト！**
  - 有償版を使いましょう
  - APIも有料化・・・

## OpenStreetMapは自由な地図

- Free/Libre
  - 誰でも自由に編集可能
  - 誰でも自由に利活用可能
  - ビジネス利用もOK
- Speed
  - いつでも更新可能
- Wiki
  - 多くの貢献者により精度と情報量を向上していく
- Community
  - OSMは世界規模のプロジェクト(コミュニティ)だが, 小さなコミュニティの集合体でもある.  
By Steve Coast

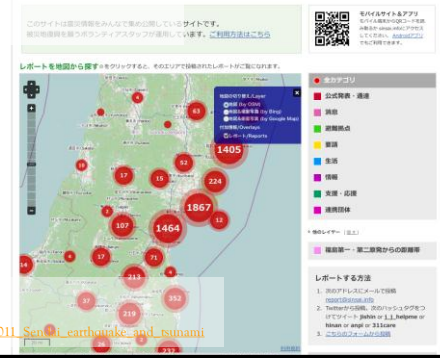
# クライスマッピング :: ハイチ地震

世界中の有志により被災状況を即時にデータ化  
(衛星写真等を利用)  
救済活動などに利用  
国連からの要請もあった



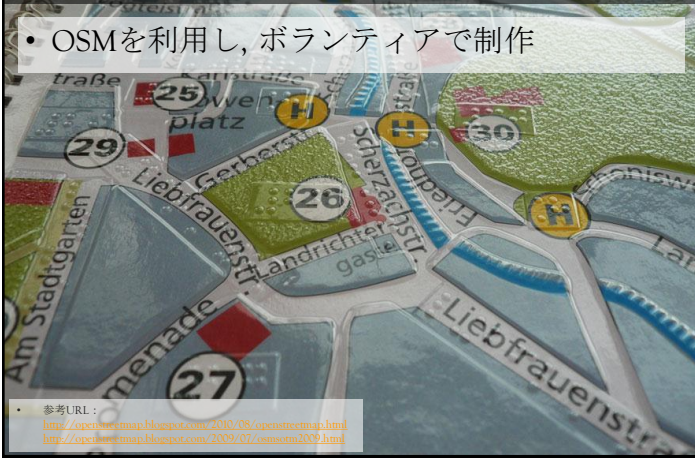
# クライスマッピング :: 東日本大震災

クライスマッピングを元に  
被災情報収集サイトを運用  
(sinsai.info)



# 触地図 (視覚障害者向け地図)

OSMを利用し、ボランティアで制作



# 愛知県新城設楽山村振興事務所の事例

(日本で最初の自治体によるOSMの活用事例)  
町おこし、観光開発  
平成22年度緊急雇用創出事業を活用



## しかし、私は失敗だっただと思っています

- 事業の目的
  - OSMの地図を充実させる事だけでは無い
  - OSM活動を通じた地域コミュニティの活性化
    - 町おこし, 観光開発
- トップダウンによる普及活動
  - 地元住民の理解が得られにくい
  - 受託事業者は, 所詮お仕事モード
  - 担当職員が変われば, 知らぬ存ぜん
- 地図は詳細に作成された
- しかし, 地元住民に根付いていないから, 地図データをメンテナンス出来ない
  - OSMの利点を生かせていない

## OSMを地域に根付かせる為の提案

- Community
  - ボトムアップによる普及活動
    - 地元住民による活動
      - セミナー, マッピングパーティー等の普及活動
- Open Government (オープンデータ)
  - 自治体の情報公開とOSMへの理解が必要
    - 地元住民の活動の後押しに
      - Open Dataハッカソン活動などの推進
- Service
  - OSMデータを活用したサービスの提供
    - 防災, 福祉, 観光開発, など
    - 様々な用途に活用
    - 地元住民のインセンティブに元づく設計

## 期待される効果

- 地域コミュニティの活性化
  - 例えば, コミュニティによる「防災マップ」作りとか
- 住民による地域の再発見
  - OSMを通じた他地域との交流 (マッピングパーティー)
- 生活環境の改善
  - 独自情報を地図に反映可能
  - 時事情報や, 災害情報なども
- 新たなサービスの創造
  - OpenStreetMapは, 情報のプラットフォームとして機能
    - OSMとOpen Dataによるマッシュアップなど
- 地図のライセンス料の負担軽減
  - 例えば, 観光マップ作成時など

## まとめ

みなさんも, ぜひ,  
OpenStreetMapに触れてみてください

[Openstreetmap.org](https://openstreetmap.org)

